



# 三春中学校だより

第 41 号

発行日 令和 元 年 1 2 月 1 0 日

発行所 三春町立三春中学校

電話 0247-62-2181 F A X 0247-62-6978

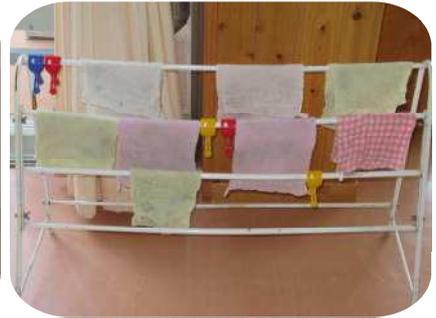
E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

## 【落ち着いた生活は今も！ ～雑巾もきちんとかけられ、ごみも落ちていません。～】

よりよい学びの環境は、充実した学校生活の基本です。これまで幾度となくお知らせしてきましたように、校舎内の雑巾がけにはいつもきちんと雑巾がかけられ、校舎内をめぐって歩くときれいに磨かれモップがかけられた床が目にとまり、ごみも落ちていません。

荒れた学校では、雑巾は乱雑、校舎のあちこちにはごみが、そこで生活する人たちの心の落ち着きのなさが感じられる状況がそこにはありました。だからこそ、今の落ち着いた生活を今後も学校一丸となって守ってまいります。そして、その落ち着いた生活を支えるものが、“おにぎり”の心ではないかと思えます。これまでおにぎりをお作りになられた経験はたくさんおありと思えます。やけどするような熱々のご飯を手に、そのおにぎりを頬張る人の姿を思い浮かべながら、きっとそのおにぎりをつくる人のお顔も穏やかなものではなかったでしょうか。大切な人に食べさせたい、喜んでもらいたい、一緒に頬張りたい、うれしさを共有したいなどという思いがその表情の中にあっただのではないのでしょうか。一人ひとりが互いを思い合う気持ちを大切にしていけば、今の三春中学校の落ち着いた生活はずっと続くような気がします。



## 【地域学習『三春学習』発表会！ ～自分は三春とどう関わっていくか考えました。～】

「この学習で学んだことをこれからの生活に生かしていきたいと思えます。」という学習後の子どもたちの感想に頼もしさと若干の物足りなさを感じていました。郷土学習は小学校2年生や5年生でも取り組むそうです。中学生にふさわしい学習とは。三春中学校に赴任して悩んでいたことでした。

その悩みを、地域学習『三春学習』が、『自分の生き方を見つめる』～持続可能な社会の実現をめざして～が解決してくれました。社会や集団で生活する中にはさまざまな問題が起こります。その問題に向き合い、解決にむけ具体的に取り組み、解決していくための練習が大切です。課題に気づき、分析し、解決策を考え、具体的に対応していく力こそ、『自ら動いて、自ら学ぶ』という三春中学校の精神そのままです。

小学校の学習発表会などを拝見すると相当のレベルで調べ学習が成立しています。ましてや、中学生の発達段階からすると、精神的にも相当な成長を見せています。思春期や反抗期と呼ばれる時代は、自分や社会の在り方をクリティカルに見つめる時期でもあり、理想を追い求める純粋な気持ちが強くなる時でもあります。そんな中学生だからこそ、現実を冷静に見つめ、分析し、具体的に解決をめざしていくことが社会での自立した人間を育てていきます。

3年生の『生き方を見つめる』の『行動宣言』は中学3年生にふさわしい、見事な『しかけ』でした。すばらしい学習でした。今回の1年生『三春学習』でも見事な『しかけ』がありました。“地域とどう関わっていくか”という『しかけ』です。この『しかけ』によって子どもたちは、『自分はどうのように具体的に地域と関わっていったらいいのか』という学習に頭が向きました。

12月6日(金)の1学年代表生徒12名・グループの発表をみると、「三春で暮らし、三春の職場で働き、人口を増やし、住みたいと思える町にしたい」、「お饅頭屋さんに恩返しをしたい。もっとお客さんが来るようチラシを考える。他にもできることはしたい」、「三春のすばらしいものや歴史を観光客に知ってもらい三春を有名にしたい」、「三春の昔からの伝統や歴史を伝え、自然環境も守っていききたい。三春を守ってくれている人に協力しよい方向に進むようにしたい」、「伝統的な祭や人形には幸せを願ってきた三春の人たちの思いが込められている。その思いが詰まった伝統をいろいろな人に伝えていきたい」、「三春は城下町特有の街路構造により駐車スペース不足という問題がある。だから、駐車スペースを確保し、道路の幅を広くし、桜などの植物をもっとPRし、三春のよさを広め、よりよい三春の未来につなげたい」、「三春には数え切れないほど環境問題がある。三春はゴミの量が多いので減らす取組をする。このままだと環境問題が深刻化し、町民の生活が苦しくな

り住めなくなってしまう。環境改善のために気をつけ、町民の環境への思いを強くしていきたい」、「道路に大きな時計を設置し昔ながらの駄菓子屋があれば観光客や地域の方々に便利だ。歴史的遺産を残すため地域が協力し守っていく」、「三春は滝桜に頼りすぎる。三春のことをたくさん知ってもらうためにまず自分たちが三春について知識をもち、好きになることでよりよい町になり観光客も増えるのではないか」、「小・中学生が中心となり広報活動に取り組むことが、三春の農産物を県内外に知ってもらう一歩となる。パンフレットをつくりいるいるな人に配り町全体で三春の農産物を広めていきたい」、「日本で1年間に発生する地震は世界の約20%を占める。災害に多い国だからこそ自分の命は自分で守れる人が増えてほしい。家族内で避難所の確認はしているか、災害への準備はしているか、家庭ではもしものことを考え相談・準備しているか、いつ何が起こるかわからないのが災害であり、だからこそ備え、考えなくてはならない」などの発表がありました。

中学生らしく、若く柔軟な頭で、郷土三春を冷静に見つめ、調べ学習から学んだことから三春町の課題について真剣に具体的に提案しています。今の中学生はやがて成長し、三春という地域をよって立つ立場となります。地域の振興・発展はこの子どもたちにかかっていることは間違いありません。中学生のたくましさを感じ機会いとなりました。



**【冬季特有の事故防止に全力を！ ～スローガン『夕暮れの早めのライトで防ぐ事故』～】**

朝焼けは天気が悪くなる兆しともいいます。その日は福島出張でしたが、吾妻小富士には雪が積もり、後日、安達太良山も雪化粧していました。12月10日(火)から1月7日(火)までの29日間、福島県では、『年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動』が展開されます。

※ **運動の重点** 1 道路横断中の交通事故防止 2 高齢者の交通事故防止 3 夕暮れ時や夜間の交通事故防止 4 すべての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底 5 飲酒運転の根絶と飲酒が関与する交通事故の防止

※ 『PM4ライトオン運動』に取り組もう！～午後4時から午後7時までが交通事故多発時間帯～

